資料６；大連日本人学校　授業実践例（小学校）

指導者　　佐藤　和彦

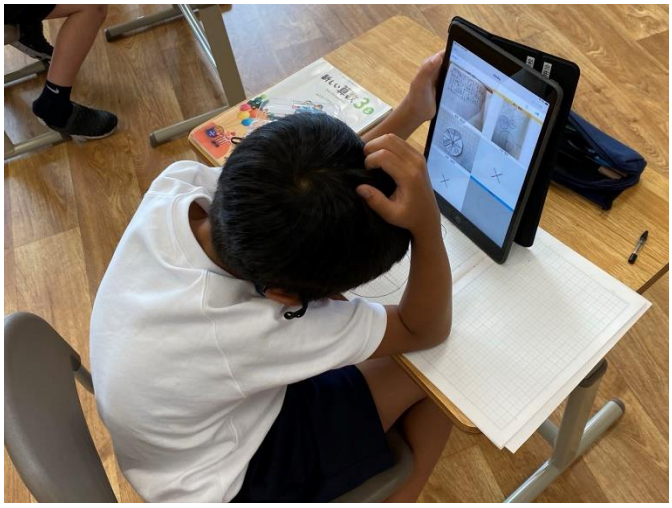
学年	３年	教科	算数
単元名	円と球		
活用する ICT	iPad　ロイロノート		

本時の目標

〇直径の意味や直径と半径の関係を理解する。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	１．課題を把握する。 この円の半径の長さは何 cm ですか S：中心がどこか分からない S：中心は大体ここら辺かな？	・大体ではなく，正確に測る方法を考えさせる。
共有	２．自力思考する。 ・円に直接書き込んだり，折ったりさせながら，中心を見つけさせ，その方法をノートに書かせる。 S：定規で測ってみよう S：折ってみよう S：２回折ったら，重なる部分があるよ。	・既習の用語（半径，中心）を使って書かせる。
まとめ	３．考えを共有する。 ・自分のノートを撮影し，ロイロノートに提出させる。 ・画面を見ながら，自分の考えと同じ部分、異なる部分を考えさせる。 ・友だちの考えのよいところ、参考になったことを自分のノートにまとめる。	
	４．まとめをする。 ・円の直径は中心通り，半径の２倍になっていることを理解させる。	・２度折りで中心は見つけられるが，どの直径も中心を通ることを理解させるために３度は折らせる。

成果

単元を通して，アプリ「ロイロノート」を活用し，用語の確認や友だちとの考え方の共有を行い，児童の考えが広がるような活動を取り入れた。本時の場合は、自分の考えをロイロノートで共有し、「友だちの考え」と「自分の考え」を比較した。手元で全員の考えを見ることができ、画面上で並べて比較することができるので、自分の考えを広げたり深めたりすることができていた。定規で測ることにこだわっていた児童も友だちの考えをじっくり読むことで、紙を折れば中心を見つけ出すことができることに納得していたので、ロイロノートを使って、考えを共有することは非常に有効だったと考える。